

平成29年度 全国学力・学習状況調査における

北九州市立 高槻 小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成29年4月18日(火)に、6年生を対象として、「教科(国語, 算数)に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思っております。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

(1) 教科に関する調査(国語, 算数)

主として「知識」に関する問題(A)	主として「活用」に関する問題(B)
・身につけておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容	・知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力
・実生活において不可欠であり、常に活用できるようにになっていることが望ましい知識・技能	・様々な課題解決のための構想を立て実践し、評価・改善する力

(2) 児童質問紙調査

児童質問紙調査
○学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

※本校の6年生は、単学級ですので、個人が特定されないように公表の方法については、配慮しています。

3. 教科に関する調査結果の概要

(1) 全国・本市の学力調査(国語A・B, 算数A・B)の結果

本年度の結果	国語A		国語B		算数A		算数B	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	11.0	74	5.1	57	11.6	77	4.9	44
全国	11.2	75	5.2	58	11.8	79	5.1	46

(2) 本校の学力調査結果の分析

国語A	全体的な傾向や特徴など	・全体的に全国平均を下回っていた。「書くこと」に関しては、改善傾向にある。
	よくできた問題	・俳句の情景について考えたこととして、適切なものを選択する問題の正答率が高かった。
	努力が必要な問題	・互いの話を聞き、考えの共通点や相違点を整理しながら進行に沿って話し合う問題の正答率が低かった。また、漢字を書く問題の無回答率が高かった。

国語B	全体的な傾向や特徴など	・「話すこと、聞くこと」に関しては、ほぼ全国平均レベルであったが、目的や意図に応じ、自分が伝えたいことを的確に話すことに課題がある。
	よくできた問題	・話の構成を工夫して話すことができるなど、スピーチメモのよさを捉える問題は正答率が高かった。
	努力が必要な問題	・登場人物の相互関係や、心情、場面についての描写を捉える問題は、正答率が低かった。また、目的や意図に応じて、適切な言葉づかいで話したり、引用して書いたりする問題の正答率も低かった。

算数A	全体的な傾向や特徴など	・全体的に全国平均を下回っていた。「量と測定」領域に対する課題がある。
	よくできた問題	・小数と整数の加減計算、二つの数の最小公倍数を求める問題、口を開いて問題場面を除法の式に表す問題は正答率が高かった。
	努力が必要な問題	・小数の乗法計算において、乗法を整数に置き換えて考えるときの乗法の性質の理解、任意単位による測定についての理解が全国平均に比べて低かった。

算数B	全体的な傾向や特徴など	・全国平均を下回ったが、算数Aよりもその差は少なかった。記述式の問題に対する抵抗感が少なくなっている。 ・表やグラフに関する問題に課題がある。
	よくできた問題	・仮の平均の考え方を活用して測定値の平均を求める問題、示された割合を解釈して基準量と比較量の関係を表している図を判断する問題の正答率が高かった。
	努力が必要な問題	・割合を比較するという目的に適したグラフを選ぶ問題、示された条件を基に適切な式を立てる問題の正答率が低かった。

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要

質問紙調査の結果分析
<ul style="list-style-type: none"> ・早寝、早起き、毎日、朝食を摂るなど、規則正しい生活を送ることができている。 ・将来の夢や希望をもち、人の役に立つ人間になりたいと思っている。今後も、挑戦意欲、達成意欲を満たす活動を通じて、自尊心を高めていく。 ・多くの時間をゲームやテレビ視聴に費やしている児童が多い。 ・宿題をする習慣は身に付いている。計画を立てて家庭学習を進めていくことができるよう、指導が必要である。 ・国語や算数で学んだことが将来役に立つことは十分に感じている。理由をつけて話したり、いろいろな解き方を考えたりすることを通して、考えを深めたり、広げたりしていく必要がある。

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組(全校で・学年で・学級で)

- 朝自習の充実を図る。
 - ・月曜日:朝読書 ・火曜日:暗唱 ・水曜日:国語(漢字の習熟、基礎基本定着問題)
 - ・木・金曜日:算数～少人数指導担当が中心となって小単元別学習プリント(計算チャレンジ、基礎基本定着問題)を各学年用意し、いつでも進路に沿った復習ができるようにする。校長、教頭、教務主任、少人数指導担当も各学年の担当を決め、指導に当たる。
- ※ なお、十分な習熟を必要とする学年においては、火曜日と水曜日を算数の時間に割り当て、より多くの教員で児童を見ていけるようにする。
- 補充的学習の時間を確保する。
 - ・教務主任、少人数指導担当、小中連携講師をTTとして各学年に割り当て、個に応じた指導の充実を図る。
 - ・毎日、給食の準備時間を使って、算数問題の間違い直しや終えていない課題に取り組みさせる。校長、教頭、少人数指導担当、教務主任が指導に当たる。
- その他
 - ・毎時間の授業の中で、「書く時間」「話合う時間」を確保する。
 - ・学校図書館職員やブックヘルパーの方の協力のもと、中休みと昼休み、図書館を開放し、児童の読書活動を奨励する。また、雨の日は、図書委員会が中心となって、紙芝居の読み聞かせを行う。
 - ・児童の家庭学習、自主学習を推奨する。
 - ・高学年を対象に、週に1回、朝日小学生新聞の天声子ども語に対する考えを書かせ、児童の「読む力」「考える力」「書く力」を育てる。

② 家庭生活習慣等に関する取組

- ・前日に学習の準備をする、ゲームは決まった時間にする等、望ましい生活習慣を家庭と連携して図る。
- ・様々な縦割りグループの活動(縦割りグループ遊び、縦割り運動、縦割り遠足、縦割り給食など)の中で上学年が下学年にお手本を示すことで、リーダーとしての資質向上を図るとともに、児童の規範意識を高める。
- ・毎月、0の付く日に企画運営委員会が中心となって、朝のあいさつ運動(正門、西門に立って、あいさつ、呼びかけ)を行う。年に数回、小中合同のあいさつ運動の日も設定する。
- ・学校行事や委員会活動、集会活動などにおいて、さまざまな役割を体験させ、達成感を味わわせたり、成功体験を積み重ねたりすることで児童自身に自信をつけさせる。
- ・月末に家庭学習チャレンジハンドブック提出週間を設定する。担任と保護者で児童の学習状況について点検、把握し、児童の学習習慣の定着を図る。
- ・毎月23日の「ノーテレビ、ノーゲーム、読書の日」を学校だより、学年だより等で家庭に知らせ、実践を促す。
- ・3学期、中学に進学する6年生を対象に、槻田中校区共通の学力実態調査(国語、算数)を行う。また、春休みの宿題も槻田中校区で共通のものを用意し、中学での学習にスムーズに移行できるようにする。